

令和5年度

# 学校要覧



## 北海道教育大学附属特別支援学校

郵便番号041-0806 函館市美原3丁目48番1号  
電話(0138)46-2515(職員室) 46-2516(事務室) FAX(0138)47-8729

[http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku\\_hak\\_tokushi/](http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_tokushi/)  
E-mail:hak-tokushi@h.hokkyodai.ac.jp

# 校歌

あかるく おおらかに

1. たかい そら - ころろ ゆたかに のびる そ  
2. ひろい うみ - のぞみ ひろがる あおい う

ら ぼくも わたしも むねはって つよくあかるく すなおにすす  
み みんな しっかり てをくんで

もう きりの め きりの め われら がまな び や

近藤 元 作詞  
片桐 誠 作曲

一、高い そら  
ころろ ゆたかに のびる 空  
ぼくも わたしも 胸はって  
強く 明るく  
すなおに すすもう  
きりのめ きりのめ  
われらが 学びや

二、広い うみ  
のぞみ ひろがる 青い 海  
みんな しっかり 手を組んで  
強く 明るく  
すなおに 伸びよう  
きりのめ きりのめ  
われらが 学びや

## みんなのうた

島津 彰 作詞  
佐々木 茂 作曲

- 一 春 春 春の花  
桜の下で 手と手をつなぎ  
リュックに おやつの 遠足だ  
エイ エイ オー  
エイ エイ オー
- 二 夏 夏 夏の雲  
ひまわり 咲いて 日差しを浴びて  
ザブザブ 泳いで 水遊び  
エイ エイ オー  
エイ エイ オー
- 三 秋 秋 秋の風  
コスモス 咲いて 力を合わせ  
みんなが 楽しい 文化祭  
エイ エイ オー  
エイ エイ オー
- 四 冬 冬 冬の空  
白樺 揺れて 体をきたえ  
スイスイ 滑って そりスキー  
エイ エイ オー  
エイ エイ オー
- ペッターン ペッターン もちつきだ

## 本校の沿革

本校発足までの歩み	昭和48年4月	北海道教育大学教育学部附属函館小学校、中学校に精神薄弱児を対象とする特殊学級を各1学級設置。「きりのめ学園」と命名。 北海道教育大学函館分校内にて授業開始。教官2名、小学校児童3名、中学校生徒2名。 (校長 近藤 元教授)
	昭和49年4月	小学校、中学校各2学級となる。教官6名、小学校児童14名、中学校生徒7名。
	昭和50年4月	小学校、中学校各3学級となり、特殊学級完成。 教官8名、小学校児童25名、中学校生徒25名。
	昭和50年5月 昭和51年1月	全道教育研究大会特殊教育部会を本学級を会場として授業公開。研究発表。 附属養護学校建設地として函館市赤川通町237-20に14,404㎡取得。
本校の歩み	昭和51年4月	国立大学設置法に基づき、北海道教育大学教育学部に附属養護学校開校。小学部3学級、中学部3学級、教官12名、事務職員2名、小学部児童24名、中学部生徒15名。 初代校長 吉田 直忠教授着任。
	昭和51年9月	附属養護学校新校舎の地鎮祭を行う。
	昭和52年4月	高等部新設。1学級生徒7名、教官17名、事務職員3名、小学部・中学部校舎竣工。 1階1,340,04㎡、2階482,99㎡、体育館512,73㎡、合計2,335,76㎡。
	昭和52年5月	新校舎へ移転。
	昭和52年12月	高等部校舎完成。628,34㎡。
	昭和54年4月	高等部1学級増設。3学級編制。
	昭和54年10月	教員養成大学・学部教官研究集会全国大会開催。
	昭和57年4月	二代校長 尾形 猛教授着任。
	昭和60年4月	三代校長 寺中 哲二教授着任。
	昭和61年6月	開校10周年記念式典挙行。
	平成3年4月	四代校長 川上 幸三教授着任。
	平成8年4月	教官定員1名増員により28名。
	平成8年11月	開校20周年記念式典挙行。
	平成9年4月	五代校長 佐々木 茂教授着任。
	平成12年4月	六代校長 木村 健一郎教授着任。
	平成13年3月	日常生活訓練棟(きりのめの家)完成。
	平成13年5月	日常生活訓練棟落成記念式典挙行。
	平成14年7月	「日本自閉症スペクトラム学会」開催。
	平成15年4月	特別支援教育センター設置。
	平成16年4月	七代校長 新開谷 央教授着任。 国立大学法人化に伴い校名を 北海道教育大学附属養護学校に変更。
	平成17年8月	特別支援教育研修会を北見市で開催。
	平成17年9月	「自閉症の子への学び支援」(明治図書)を出版。
	平成17年10月	NISE自閉症教育実践セミナーを開催。
	平成18年7月	特別支援教育研修会第2回を釧路市で開催。
	平成18年11月	開校30周年を祝う会・祝賀会開催。
	平成19年	八代校長 松木 貴司教授着任。 法改正に伴い校名を北海道教育大学附属特別支援学校に変更。 新校名看板プレート設置。子育てサロンの開設。 公開研究報告会を開催し、新教育課程の発表をする。
	平成21年	十三代PTA会長 青島 浩司氏。
平成22年	十四代PTA会長 山田 恵理子氏。	
平成23年	多目的棟(地域貢献施設)完成。 九代校長 小栗 祐美教授着任。 十五代PTA会長 中谷なおみ氏。	
平成24年	耐震化工事を含めた校舎改修事業完了。	
平成25年	第35回北海道特別支援教育研究協議会道南地区・函館大会開催。 『「社会忍とかかわる力」を育てる16つの支援エッセンス』(明治図書) 「現職教員のための臨床研修会」開催。 災害時対応備蓄庫設置。 十六代PTA会長 両角 智恵氏。	
平成26年	「現職教員のための臨床研修会」開催。 防犯監視カメラシステム更新。ステージ幕昇降装置設置。 十七代PTA会長 羽川 昌久氏。	
平成27年	「現職教員のための臨床研修会」開催。 体育館バスケットボールゴール、ステージ幕、電動暗幕装置更新。 体育館照明落下防止工事及び照明スイッチ切替。	
平成28年	「現職教員のための臨床研修会」開催。 十八代PTA会長 岡部 ひとみ氏。	
平成29年	駐車場夜間照明。日常生活訓練テラスとミーティングルームにブラインドカーテン設置。 「現職教員のための臨床研修会」開催。	
平成30年	十代校長 紀藤 典夫教授着任。 「アセスメントで授業が変わる 特別支援学校・学級で生かす子ども理解と支援のアイデアJ」(図書文化)を出版。 全国国立大学附属学校PTA連合会団体表彰で、本校PTA作成「よかしえんBook」が会長賞を受賞。	
令和元年	群馬大学附属特別支援学校中学部との交流。 「共生社会実現のための地域に開かれた学校づくり事業」(寄付目標100万円)が162%で達成。 文部科学省委託事業「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)」の推進事業。	
令和3年	十九代PTA会長 松田 洋子氏。 十一代校長 青山 眞二教授着任。 二十代PTA会長 阿部みゆき氏。	
令和4年	二十一代PTA会長 猪股千佳子氏。	
令和5年	二十二代PTA会長 水野真紀子氏。	

# 学校経営

## 校訓 つよく あかるく すなおに

### 学校教育目標

#### 学ぶことを楽しみ 次の学びに意欲がもてる子どもを育てる

- 自分の良さを発揮できる子
- 自分らしい学び方を身に付ける子
- 自分の生き方を見つけ、自己実現する子
- 地域の良さを知り、地域と共に、地域で暮らす子

### 目指す学校像

子どもが学びたくなる学校

保護者も学びたくなる学校

地域と共にある学校

教職員が働く喜びを味わえる学校



教育方針	経営方針
専門性を生かした最適な指導・支援 「地域で生きる」を目指した教育課程	目標具現化に向けた体制の確立と組織力の強化 専門性向上に向けた研修の推進
<ul style="list-style-type: none"><li>■児童生徒が地域で生きるために必要な資質・能力を確実に育てる。</li><li>■知的障がい教育・自閉症教育における多様な学び方を重視した実践を行う。</li><li>■社会参加を目指した実践的な力を育てる。 (知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成)</li><li>■人や社会とかがわり合う力を育成する。 (学びに向かう力、人間性等の涵養)</li><li>■家庭・地域と連携した教育活動の実践を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■教職員の「授業力向上」を目指す。</li><li>■共生社会の実現を目指し、地域との連携を推進する。</li><li>■大学や関係機関と連携し、研究の発信、研修の実施を推進する。</li><li>■教育実習の充実を目指す。</li><li>■安心安全な学校経営を推進する。</li></ul>

### 重点教育目標

#### 自分や他者の良さ・地域の良さに気付き、日々の学びに意欲的に取り組む児童生徒の育成

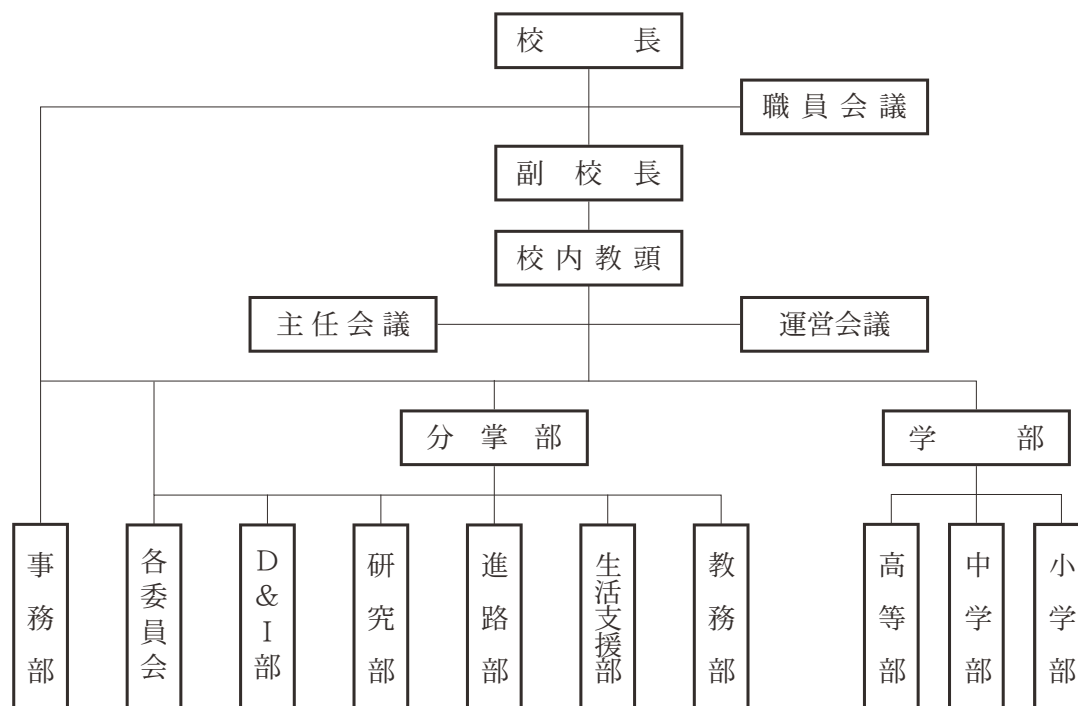
教育活動推進の重点	経営活動推進の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・日々の学習活動や行事等の評価に基づき、単元のねらいや年間指導計画を見直し、適切な教育課程の編成を行う。</li><li>・一人一人のねらいを明確にした学習活動を推進する。</li><li>・様々な実態把握に基づき、根拠のある指導・支援を推進する。</li><li>・情報活用能力の育成、個別最適な学び、協働的な学びによる資質・能力の育成に向けたICT教育を推進する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・会議の縮小、業務の整理を進める中で、それぞれの会議や業務の意図を明確にする。</li><li>・実態把握や指導・支援に関する専門性の向上に向けた研修を行う。</li><li>・各学部、分掌、教職員の良さを生かし、横断的に業務を進める。</li><li>・職員間の対話や必要な報告・連絡・確認により、協働的に業務を進める。</li><li>・児童生徒や保護者及び教職員全てにおいて自他を認める人間関係づくりに努め、いじめや体罰、不登校のない学校にする。</li><li>・大学や地域と連携した教育活動と研究活動を推進する。</li></ul>

### 研究主題

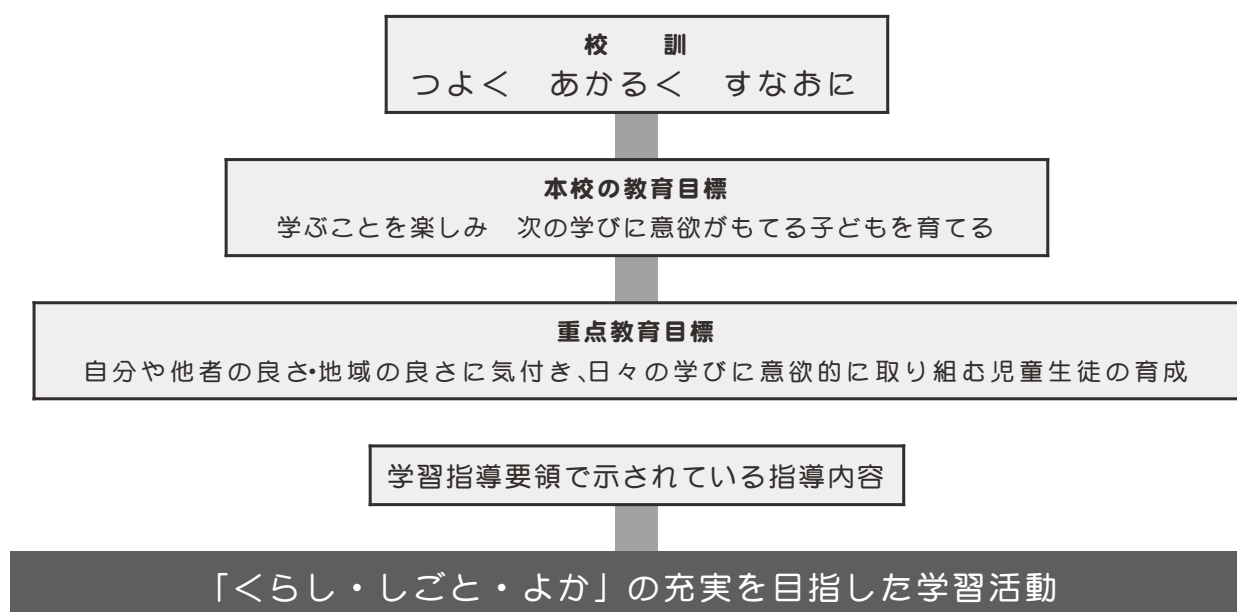
#### 児童生徒一人ひとりの自己実現を目指した授業実践に関する研究

## 学校運営組織

◎運営組織・校務分掌



## 教育課程の構造



## 研究の歩み

- 昭和48年～49年 教育課程の研究 ー個を高めるための目標の具体化ー
- 昭和50年～52年 個々の実態に応じた治療教育 ーITPAによる能力障害の発見と学習指導ー  
**全道教育研究大会特殊教育部会で発表**  
 第1回教育研究大会（昭和50年）  
 ー養護・訓練の指導内容および方法の研究ー（昭和51年～昭和52年）
- 昭和53年～55年 養護学校（精神薄弱児教育）の教科指導の内容と方法の改善  
 第2回教育研究大会（昭和53年）  
**教員養成大学・学部教官研究集会全国大会を開催**  
 第3・4回教育研究大会（昭和54～55年）
- 昭和56年～59年 生活力を高めるための総合的学習  
 第5～7回教育研究大会（昭和57～59年）
- 昭和60年～63年 ー生活力を高めるためにー  
 教育課程の編成と指導計画の作成  
 第8・9回教育研究大会（昭和60～62年）
- 平成元年～3年 一人ひとりの生活力を高める指導  
 第10～12回教育研究大会（平成元～3年）
- 平成4年～6年 一人一人の豊かなかかわり合いをめざして  
 第13～15回教育研究大会（平成4～6年）  
**実践特殊教育資料集1「豊かなかかわり合いを求めてー遊び学習のすすめー」（平成5年）出版**  
**実践特殊教育資料集2「生きる意欲と生きる力をー作業学習の展開ー」（平成6年）出版**
- 平成7年～9年 主体的な活動を促す「指導の最適化」をめざして ～個別化・個性化の視点から～  
 第16～18回教育研究大会（平成7～9年）
- 平成10年～11年 自閉症児の指導の最適化をめざして  
 第19・20回公開研究会（平成10～11年）
- 平成12年～13年 自閉症児の最適な支援の在り方をさぐる  
 第21回公開研究会（平成13年）
- 平成14年～15年 最適な支援をめざした学校教育の創造～自閉症児への支援を切り口にして～
- 平成16年～18年 一人一人の教育的ニーズに応じた支援を探る  
 第22回公開研究協議会（平成16年）  
**N I S E 自閉症教育実践セミナー（平成17年）を開催**  
**特別支援教育ライブラリー「自閉症の子への学び支援」（平成17年）出版**  
 第23回公開研究協議会（平成18年度）
- 平成19年～20年 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を探る  
 第24回公開研究協議会（平成20年度）
- 平成21年～24年 主体的に社会にかかわっていく力を育む授業の創造  
 第25～27回公開研究協議会（平成21～23年度）
- 平成25年～26年 **特別支援教育の授業づくり「『社会とかわる力』を育てる！6つの支援エッセンス」（平成25年）出版**  
 第35回北海道特別支援教育研究協議会道南地区函館大会開催  
 他者とのかかわり合いの中で自己が育つ授業づくり  
 第28・29回公開研究協議会（平成25～26年度）
- 平成27年 研究フォーラム「北海道の特別支援教育の授業力を考える」開催
- 平成28年～30年 生活を豊かにしていく力を育む授業づくり  
 第30回～32回公開研究協議会  
**「アセスメントで授業が変わる特別支援学校・学級で生かす子ども理解と支援のアイデア」出版**  
 北海道・北東北アールプリュット展を共催
- 令和元年 育成を目指す資質・能力と知的障がい教育の学び  
 第33回公開研究協議会  
 道立特別支援学校及び公立小中学校との連携
- 令和2年～3年 育成を目指す資質・能力と知的障がい教育の学び  
 研究に関わる動画配信の実施
- 令和4年～ 第34回公開研究協議会  
 児童生徒一人ひとりの自己実現を目指した授業実践に関する研究



平成31年4月発刊

## 日課表と基本時間割

### 【日課表】

8:45
1 教時
9:30
2 教時
10:15
休み時間
10:30
3 教時
11:15
4 教時
12:00
5 教時
12:45
昼休み
13:05
6 教時
13:50
7 教時
14:35
8 教時
14:50

### 【小学部 1 組】

	月	火	水	木	金
1	朝の活動				
2	きりのめ体育／会活動				
休	休み時間				
3	課題学習	生活科を中心とした合わせた指導	生活科を中心とした合わせた指導	ことば・かず	生活科を中心とした合わせた指導
4	きりのめ音楽	せいさく	遊び活動	きりのめ体育／遊び活動	遊び活動
5	給食				
休	休み時間				
6	帰りの活動				

### 【小学部 2 組】

	月	火	水	木	金
1	朝の活動				
2	きりのめ体育／会活動				
休	休み時間				
3	課題学習	生活科を中心とした合わせた指導	生活科を中心とした合わせた指導	ことば・かず	生活科を中心とした合わせた指導
4	きりのめ音楽	せいさく	生活科を中心とした合わせた指導	きりのめ体育	遊び活動
5	給食				
休	休み時間				
6	帰りの活動				

### 【小学部 3 組】

	月	火	水	木	金
1	朝の活動				
2	きりのめ体育／会活動				
休	休み時間				
3	課題学習	生活科を中心とした合わせた指導	生活科を中心とした合わせた指導	ことば・かず	生活科を中心とした合わせた指導
4	きりのめ音楽	せいさく	生活科を中心とした合わせた指導	きりのめ体育	遊び活動
5	給食				
休	休み時間				
6	帰りの活動	進路・作業	帰りの活動		
7					
8		帰りの活動			

### 【中学部】

	月	火	水	木	金
1	朝の活動				
2	チャレンジ学習	チャレンジ学習	チャレンジ学習	チャレンジ学習	地域活動
休	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	
3	進路・作業	音楽活動／体育活動	造形活動	進路・作業	
4					
5	給食				
休	休み時間				
6	帰りの活動	くらすタイム	帰りの活動	生活実践	帰りの活動
7					
8		帰りの活動		帰りの活動	

### 【高等部】

	月	火	水	木	金
1	HR／朝の運動				
2	作業学習	作業学習	LHR	作業学習	総合的な探求の時間
休			休み時間		
3			生活単元学習		
4					自立活動
5	給食				
休	休み時間				
6	選択学習	作業学習	HR	選択学習	HR
7					
8	HR	HR		HR	

## 児童・生徒の状況

○ 児童生徒数（学年、男女別）

学部	学 年	男	女	計	合 計
小 学 部	1 年	3	0	3	18
	2 年	3	0	3	
	3 年	2	1	3	
	4 年	2	1	3	
	5 年	1	2	3	
	6 年	3	0	3	
中 学 部	1 年	3	3	6	18
	2 年	4	2	6	
	3 年	4	2	6	
高 等 部	1 年	5	3	8	23
	2 年	6	2	8	
	3 年	5	2	7	
合 計		41	18	59	

○ 児童生徒の居住市町別人数

	小学部	中学部	高等部	合 計
函 館 市	15	14	16	45
北 斗 市	2	2	4	8
七 飯 町	1	2	3	6

○ 児童生徒の障がい等の状況（知的障がい以外の障がい）

学部 障がい等	小学部	中学部	高等部	合 計
自 閉 スペクトラム症	14	9	15	38
ダウ ン 症	3	5	3	11
てんかん	2	0	1	3

○ 児童生徒の通学方法

	一人通学				保護者の介助					
	徒 歩		路線バス・ 電 車		徒 歩		路線バス・ 電 車		自家用車	
小 学 部	0		0		0		0		18	
中 学 部	1 年	0	0	0	0	1	6	16		
	2 年	0	0	0	1	0	5			
	3 年	0	0	1	0	0	5			
高 等 部	1 年	2	0	0	1	5	13			
	2 年	1	3	0	0	1		4		
	3 年	0	4	0	0	4				
合 計		3		7		1		2		47



## 卒業生の進路 (高等部卒業時)

内容	年度										
	24	25	26	27	28	29	30	31	令和2	令和3	令和4
就職	0	0	0	1	1	0	2	2	1	1	3
家業・家事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設	6	8	5	7	8	8	6	6	7	7	4
その他	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	8	8	6	8	9	8	8	8	8	8	8



就労先での様子

## 同窓会

卒業生の卒後支援のため、同窓会等の活動をはじめ、職場、施設等への定期的な訪問を行い、卒業生の様々な相談に対応しています。



同窓会の写真

## 介護等体験

1回目 6月15日(木)～6月16日(金)

2回目 6月29日(木)～6月30日(金)

3回目 7月13日(木)～7月14日(金)

## 教育実習

教育実習Ⅰ 8月22日(火)～

教育実習Ⅱ 9月5日(火)～

教育実習Ⅲ 9月19日(火)～

## きりのめの家

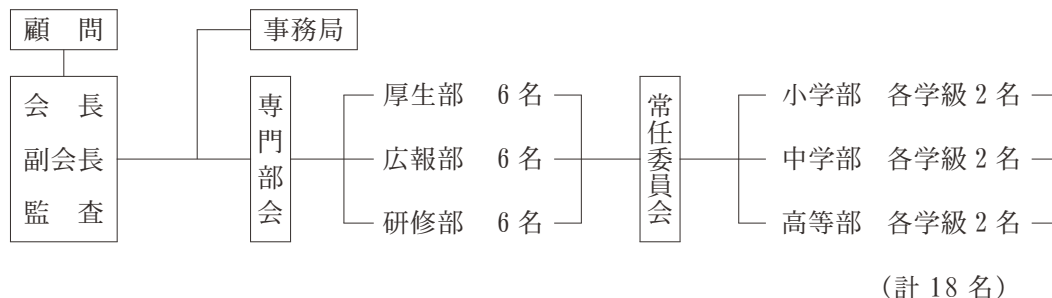
日常生活訓練棟として平成13年3月に落成しました。主として宿泊学習等で使用するほか、進路・作業や調理活動等で活用しています。

また、地域の方の研修や会議スペースとしても使用しています。



## P T Aの組織と活動

### ○ P T A組織



### ○ P T A各部の活動内容

- 事務局・・・学級、学部、学校のP T A会議等の企画運営を通じてP T Aの円滑な運営を図る。
  - ・学部、学級P T Aと学校との連絡調整
  - ・三役会議、専門部会、常任委員会の開催と意見交流
  - ・P T A各部との連絡調整
  - ・他P T Aとの連絡調整
  - ・全附属P T A研修会等への参加計画
  - ・P T A各種事業への協力
  - ・P T Aだよりの発行
- 広報部・・・P T A会報の編集・発行を通して会員の情報を交換し、活動への理解を図る。
  - ・P T A広報誌の原稿依頼・発行（随時）
  - ・よかしえんガイドBookの改訂
- 研修部・・・P T A講習会、講話会などを企画・運営し、会員の資質と教養の向上を図る。
  - ・研修会
  - ・見学会（施設、事業所等の見学）
  - ・サークル活動の企画・運営
- 厚生部・・・P T A会員相互の親睦・厚生を目指した諸事業の企画と円滑な運営を図る。
  - ・懇親会（会員と教職員、前年度卒業生父母、転出教職員も含めた懇親会）
  - ・花壇整備
  - ・茶話会
- ◆学部・学級P T A・・・各学部、学級のP T A活動の企画・運営を行う（各常任委員）。

主な年間行事予定

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
学校行事	着任式・始業式 入学式 身体測定 全体保護者会 学部・学級懇談会 内科検診	支援ミーティング週間	開校記念日 避難訓練 介護等体験実習 眼科検診 歯科検診	介護等体験実習 集会活動Ⅰ 身体測定 公開研究協議会 終業式 同窓会	始業式 教育実習Ⅰ 避難訓練	教育実習Ⅱ・Ⅲ
小学部		遠足	小学部体育祭			
中学部		遠足	中学部体育祭			宿泊学習
高等部		交流及び共同学習 現場実習Ⅰ	高等部体育祭 交流及び共同学習			交流及び共同学習

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学校行事	支援ミーティング週間	きりのめ文化フェスティバル(～12月) 集会活動Ⅱ 入学者選考	身体測定 終業式	始業式	支援ミーティング週間 新入学予定者保護者説明会	集会活動Ⅲ 学部・学級懇談会 卒業証書授与式 修了式・退任式
小学部	宿泊学習				中学部体験学習(6年)	
中学部			交流及び共同学習	交流及び共同学習	交流及び共同学習 高等部体験学習(3年)	
高等部	現場実習Ⅱ	現場実習Ⅲ	修学旅行		交流及び共同学習	3年生を送る会

## 令和6年度 児童生徒募集 (概要)

### (1) 出願資格

小学校及び中学校に就学する年齢に該当する者、並びに中学校又は特別支援学校中学部を卒業した者で、次の事項に該当する者

- 主たる障がいが知的障がい、本校の教育を受けることが望ましいと考えられる者
- 函館市・七飯町・北斗市のいずれかに保護者と共に居住し、本校に無理なく通学することができる者

### (2) 募集人員

小学部 1学年 3名  
中学部 1学年 6名 (本校小学部からの内部進学希望者を含む)  
高等部 1学年 8名 (本校中学部からの内部進学希望者を含む)

### (3) 期 日

募集公示 令和5年 5月中旬  
学部見学会 6月26日(月)、29日(木)、7月3日(月)、10日(月)  
入学者選考日 令和5年11月20日(月)、21日(火)、22日(水)  
合格発表 12月 5日(火)

### (4) 選考方法

児童生徒面接、行動観察、検査、健康診断、保護者面接を実施します。  
適格者多数の場合は、別途募集要項に沿って合格者を決定します。

(5) 入学を希望される方は、学部見学会、教育相談 (入学を前提とした) を必ず受けてください。詳しい日程につきましては本校ホームページをご覧ください。

## センター的機能

コーディネーター等が教育相談を受けています。

### ◇ 子どもの理解に関すること

実態把握はどのように行えばいいの？  
障がいをどのように理解すればいいの？

### ◇ 学習や進路に関すること

教育課程はどうすればいいの？  
授業づくりをどうすればいいの？  
教室の環境づくりをどうすればいいの？  
子どもたちの進路をどう考えればいいの？

### ◇ 不適切な行動に関すること

その行動をどのように理解すればいいの？  
どのように対処すればいいの？

### ◇ その他いろいろなこと

家庭や地域との連携をどう図ればいいの？  
医療機関との連携をどう図ればいいの？  
学級経営上のトラブルをどう解決すればいいの？

大学と連携して、  
幼児期の子育て支援  
『きりのめキッズくらぶ  
(小集団指導)』  
を行っています。

### 保護者の方を対象とした 教育・発達相談

知的障がいをもつお子さんや、  
発達が気になるお子さんの特別  
支援教育に関するご相談を受け  
けます。

### 担任の先生を対象とした 教育・発達相談

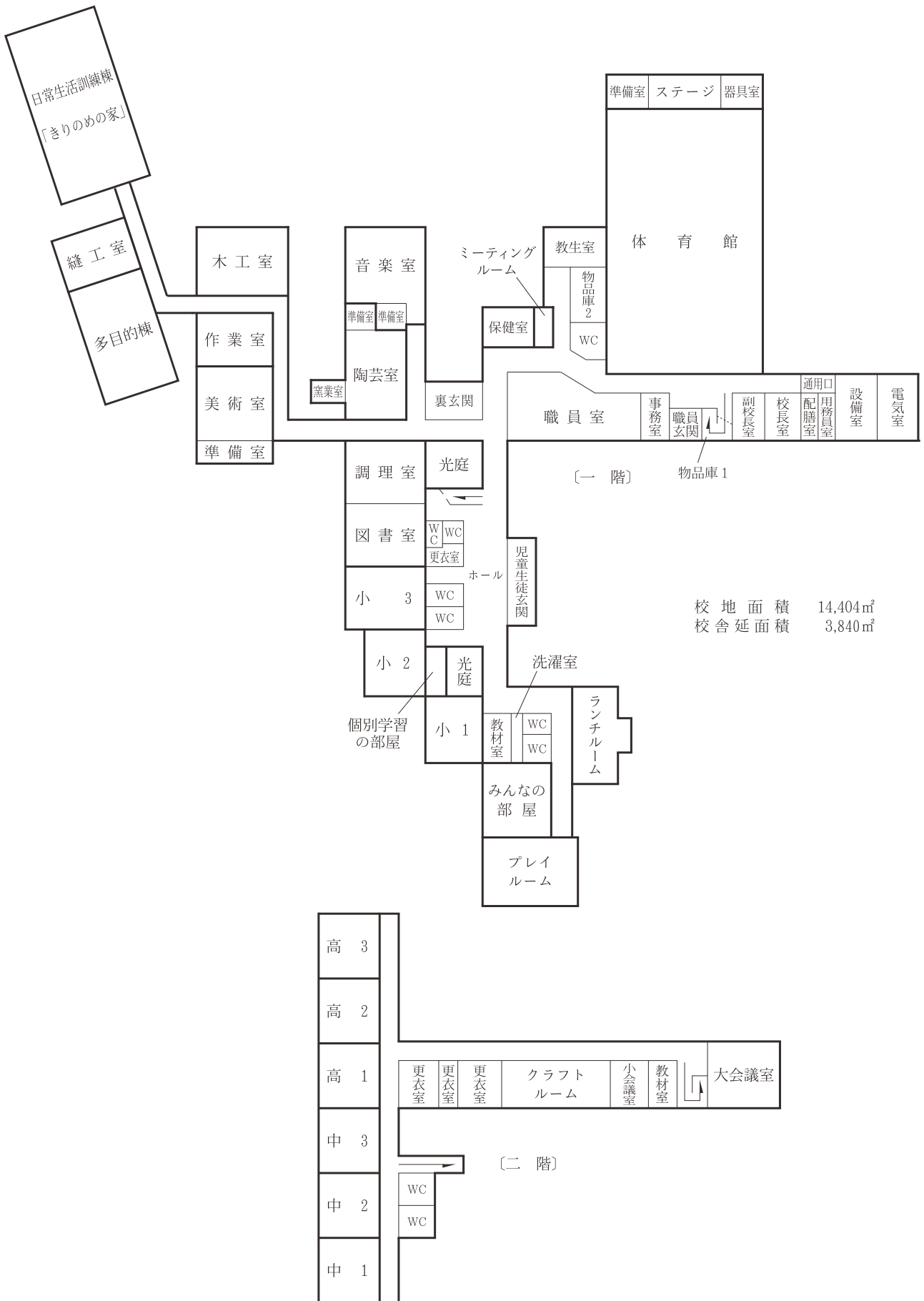
特別な支援を必要とする幼児児童  
生徒に対する指導方法や支援方法  
に関するご相談、校内研修会の講  
師の要請、検査器具の貸し出しな  
どにお応えします。

### 幼児期への指導支援機能

幼児期のお子さんを対象として、  
大学と連携し小集団での指導 (き  
りのめキッズくらぶ) を行って  
います。

※すべての事業は無料で行っています。

# 教室配置図



## 学校案内図



### 案内

- JR 函館駅より
  - ・函館バス⑤1、③0で「特別支援学校前」下車（徒歩1分）
  - ・函館バス⑥7で「昭和ターミナル」下車（徒歩10分）
  - ・タクシーで20分（約2,500円）
- 函館空港より
  - ・函館バスとびっこで「亀田支所前」下車（徒歩15分）
  - ・タクシーで30分（約2,800円）

